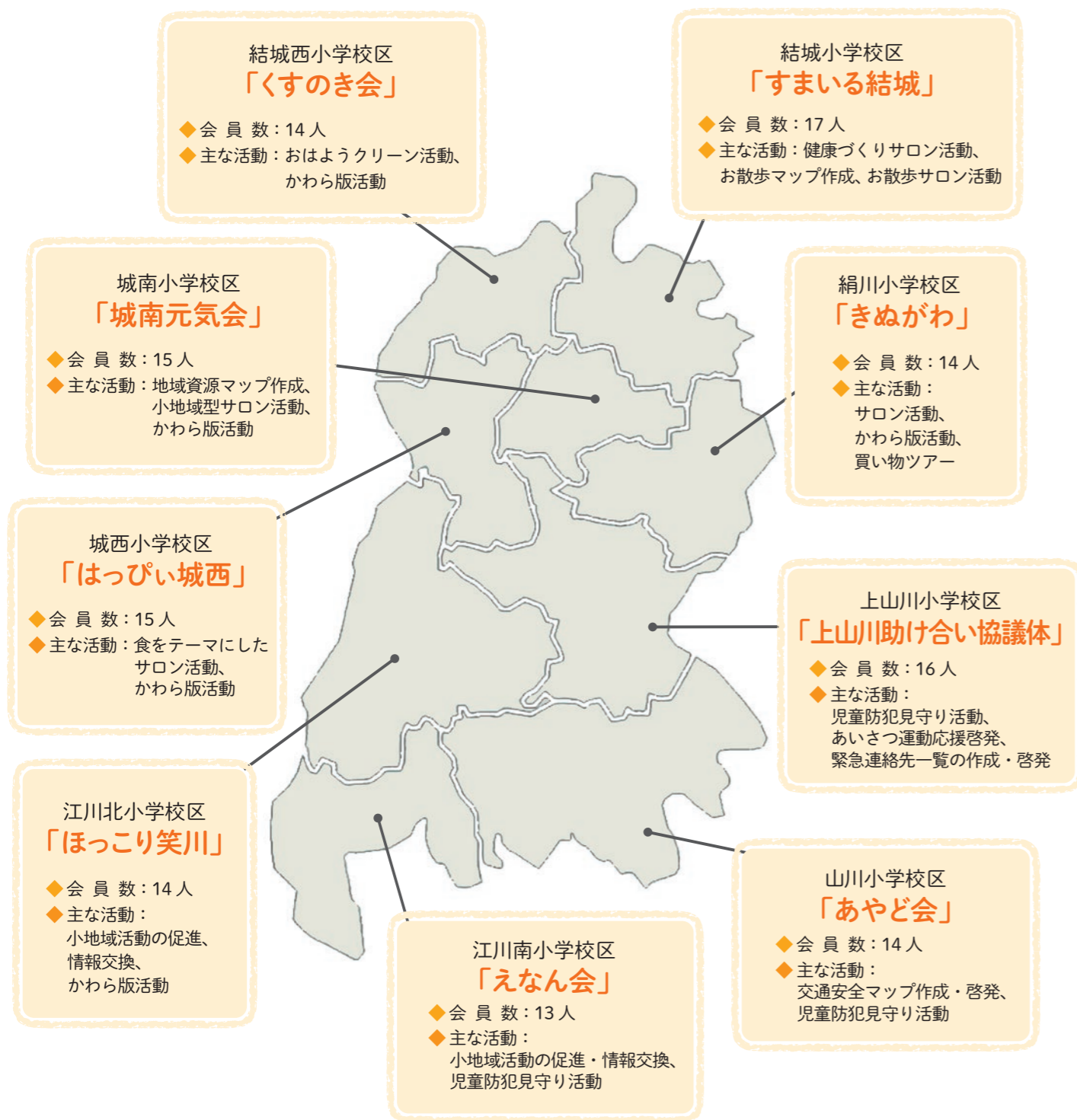


## 第2層協議体は小学校区ごとに9つの団体があります



※各団体の活動内容など詳しくは、広報結城9月号から連載コーナーを設けてご紹介します。

事業内容や各団体の活動について詳しく知りたい方、地域活動に興味をお持ちの方は、**生活支援コーディネーター（結城市社会福祉協議会）**まで気軽にお問合せください。（☎33-0225）

## 地域の「実践者」にインタビュー

取組の中心を担う第2層協議体として、精力的な活動を行っている絹川小学校区「きぬがわ」の岩瀬さんと、「買い物ツアー」を一緒に行った結城特別支援学校教諭の青柳さんに、お話を伺いました。



地域の問題は多くは自分たちで解決できる

**岩瀬 幸子さん**  
第2層協議体（絹川小学校区）  
「きぬがわ」メンバー

「買い物ツアー」は、当校の高等部ビジネス・ライフ科の生徒が、将来の進路について考える学習活動の一環として実施しました。スーパーに移動するバスの車内から、生徒たちが積極的に話しかけていたので、参加した高齢者の皆さんもある意味“孫としゃべっている”ような感覚で、最後は双方が別れを惜しむような、本当に感動的な時間になりました。

学校としても、地域の方々に生徒の顔を覚えていただくことで、学校への信頼感が高まったり、災害時の対応などでも大きな効果があると感じています。また、このツアー後に介護福祉系の仕事に興味をもった生徒もいて、「地域」と「学校」のニーズが合致した理想的な企画だと思います。ぜひ今後も継続していきたいですね。

ただ、急に発展させる必要はないと考えています。持続可能な形で、できることを1回ずつ続けていくことで、いつか“地域の風土”のように定着し、次の世代につながっていくのではないのでしょうか。

私たち「きぬがわ」は、令和元年6月からサロン活動を始めました。昔からの気心知れた女性メンバーが中心なので、各自の役割も明確で、皆が楽しく前向きに参加できていることが、とても大きいですね。カラオケサロンを開いたり、鹿窪運動公園でお花見をしたりと、地域の高齢者や住民が気軽に顔を出せるような企画を行っています。

昨年11月には、高齢者の買い物を特別支援学校の生徒にサポートしてもらう「買い物ツアー」を初めて行ったのですが、生徒さんが重い荷物を持ってくれたり、話し相手にもなってくれて、参加者は本当に大満足！初対面だったにもかかわらず、別れ際に涙する方や、後で手紙のやり取りを始めた方などいて、「人と触れ合う」ことがいかに大切か、心から感じた瞬間でした。

『地域の問題は自分たちで解決する』が、この活動の基本です。今後は、学区内の各地域ごとに「リーダー」を掘り起こし、地域福祉を“自分ごと”にしてくれる人を増やしていきたいですね。



地域ができることを少しずつやればいい

**青柳 知行さん**  
県立結城特別支援学校 教諭